

地域に視点をあてた事業展開 [高年]

## 江南市社会福祉協議会と協働して取り組む 「施設発！ふれあいサロン」の活動

「安心した生活が出来る街づくり」へ施設として貢献するために、江南市社会福祉協議会と協働して施設内に「ふれあいサロン」を開設している。地域の高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりの場の提供を行い、施設利用者とサロン参加者も交流のできる「施設だからこそできるサロン」を目指して活動している。

愛知県

社会福祉法人 サンライフ

〒483-8363 愛知県江南市河野町五十間59  
TEL：0587-57-3301 FAX：0587-57-2251

### ◇法人設立年

昭和62年

### ◇法人実施事業

- ①経営施設（事業）数：38事業
- ②経営施設・事業の種類：  
特別養護老人ホーム…6、介護老人保健施設…  
1、ケアハウス…2、訪問介護…1、訪問リハ  
ビリテーション…1、通所介護…5、通所リハ  
ビリテーション…1、短期入所生活介護…5、  
短期入所療養介護…1、小規模多機能型居宅介  
護…1、認知症対応型共同生活介護…4、居宅  
介護支援事業…3、養護老人ホーム…1、生活  
支援通所事業…1、生活支援短期宿泊事業…1、  
地域包括支援センター…2、高齢者向け有料賃  
貸住宅…1、介護付有料老人ホーム…1

### ◇法人の理念・経営方針

<理念>

1. 利用者様がもてる力を発揮して、自信と幸福  
を感じられる生活を支援します。
2. 利用者様の自己決定を尊重し、一人一人のラ  
イフスタイルを支援します。
3. 職員が働く場に喜びと誇りを持ち、自ら改革  
する力を持てるよう育成します。
4. 法律、その他基準に従って、常に組織・運営  
を見直します。
5. 地域とともに少子高齢社会を考え、安心な街  
づくりに貢献します。
6. 地域社会の変化と改革の先駆者となります。

### ◇取り組みを実施している施設の概要

【施設名】ジョイフル江南

【施設種別及び利用定員】

特別養護老人ホーム 80名、ケアハウス  
50名、通所介護 35名、短期入所生活介護  
18名、認知症対応型共同生活介護 9名

### ◇活動内容

- 活動開始年  
平成20年1月
- 活動の対象者  
地域で暮らす概ね65歳以上の健康な高齢者、  
ケアハウス入居者
- 活動の頻度・時間  
毎月第4水曜日、1回あたり1時間半

### ◇活動実施の背景、実施にいたった理由

今まで施設は、地域住民には何十年と知られた存在であったが、「施設＝介護を必要とする人が利用する場所」という意識が根強く、地域住民が施設へ足を運ぶことはほとんどなかった。また、「地域開放」をしてボランティアによる演芸披露などを受け入れてきたが、どれも単発でその場限りで終わってしまっていた。

「施設という場所を、地域にある喫茶店や床屋さんと変わりなく、気軽に立ち寄れる『憩いの場』として開放できないだろうか。」と模索していたところ、市社協で開催された「地域福祉研究会」に参加する機会があった。そこで「ふれあいサロン」の存在を知り、「ふれあいサロンは誰でも立ち上げることが可能である。」という話を聞いた。

地域には、介護保険サービスを受けるほどの状態ではないが、何もすることがなく、家で時間を持て余している高齢者がたくさんいた。その高齢者が「あそこに行くと私たちでも楽しめる」と思っただけの場所を作れないだろうか、という思いが膨らみ、市社協と協働で施設内のスペースを活用したジョイフルサロン（以下、サロン）を立ち上げてみようということになった。

### ◇実施内容

65歳以上の近隣の住民を対象としており、現在の登録者は約20名である。毎回15～16名の参加があり、自転車や徒歩で来訪される。参加者は介護保険サービスを受けるほどの状態ではないが、平均年齢が79.4歳と高いため、介護予防や健康維持、余暇活動を中心としたプログラムを考えている。活動の主な内容は、身軽にできる健康体操や嚙下体操、趣味を生かした押し花作り、げんこつ飴作りなどがある。施設での開催ということで、年に数回ケアハウスや特別養護老人ホームの施設利用者も参加し、サロンの記念日を一緒に祝ったり、同じ地域の住民として過ごせる時間を取り入れている。また、このサロンの特徴でもある「職員によるレクリエーション指導」として、認知症予防の講座も行っている。

サロンには一人暮らしの高齢者も参加されているため、職員とボランティアスタッフが仲介役として、旬な話題を提供したり、日頃の悩みを聞いたりして、参加者の不安を取り除けるようサポートしている。

### ◇活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

元気な参加者にとっては、足を運ぶことがなかった施設であるが、今ではこのサロンが「いざという時の安心」のための心強い味方となっているのを感じる。それは、サロンの参加者から介護用品の相談を受けたことや、体調を崩された一人暮らしの参加者の情報を法人内の地域包括支援センターへつなぎ、すぐに訪問し対応できた実績があるからである。

また、施設でのサロンには驚きや発見もある。それは、参加者の中に元利用者のご家族がおり、職員を覚えていてくれたことや、長年ケアハウスの方にゲートボールを指導いただいていた（今は亡き）講師の奥様が参加者だったことである。これらのことにより、途切れていたものがサロンを通じて再びつながったと感ずることができた。

さらにこのサロンは、施設利用者にとっても大きな役割を果たしている。24時間365日顔を合わせている「お隣さん（同じ利用者）」とは違う参加者（地域住民）と過ごすことで、平凡だった施設生活に変化が加わり、利用者の中にある「施設は孤独」という気持ちが軽減される効果がある。元気な参加者の存在自体が、利用者の生活にハリと刺激を与えてくれている。

### ◇今後の展開

サロンを開催して3年目に突入し、「施設サロン」の役割や効果が眼に見える形で現れてきた。ただ、地域にはサロン参加者以外にも元気な高齢者がたくさん生活している。長年、地域に知られた存在の施設だからこそ、一人でも多くの高齢者にこのような安心の素となるサロンの存在を広めていく役割があるのではないだろうか。

今後の展開としては、施設から飛び出し「出張サロン」として施設外でも開催する機会を設けていきたい。同時に、参加したことのない高齢の地域住民にも呼びかけをすることも必要である。入れ替わりはあるだろうが、「従来の参加者＋職員＋新たな参加者」の関係が続いていくサロンを目指していきたい。



### ◇主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
季節行事費	26,500円	社協交付金	13,500円
消耗品費	6,000円	雑収入	8,000円
雑費	2,500円	助け合い寄付金	10,000円
		前年度繰越	1,000円
		施設負担	2,500円
<合計>	35,000円	<合計>	35,000円

- ・取り組みにかかわった職員数 3名  
(職種等：ボランティアコーディネーター、特養主任相談員、グループホームハウスマネージャー)